

平成29年度特別養護老人ホーム「千寿の園」事業報告書

- 理念 I 利用者・家族・職員の誰もが安心して生活できる「場」であること
 II 自分の家族、自分が入居してもいいなと思えるケアを創ること
 年度テーマ＝「熱き心と冷たい頭での実践（科学とヒューマニズム）」
 上記の理念に基づいて、事業を展開してきた。以下、報告する。

第1 概況

1 介護報酬改定に伴う影響

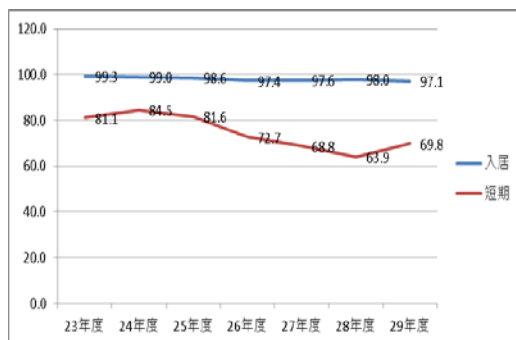
大幅な減額を伴った平成27年度介護報酬改定は29年度までの3年間であり、29年度も千寿の園のような多床室従来型は非常に厳しい経営内容となっている。

2 人材確保の困難性

人材確保は困難を極めており、途中採用CWの2人は紹介業者の仲介で計約160万円の手数料を払うこととなり、人材確保の根本的は対策が急務である。

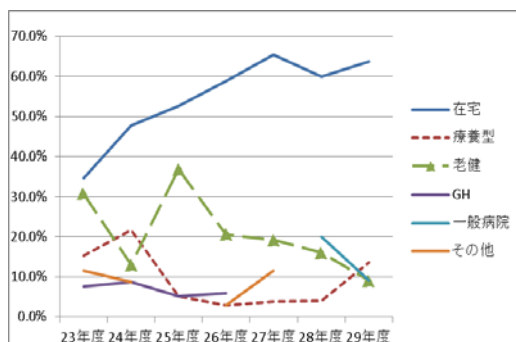
3 利用率（稼働率）に関する状況

表1 入居・短期稼働率グラフ23年度～29年度



平成27年度において要介護度3以上が入居要件になったことにより入居希望者の自主規制や他の介護業者（老人保健施設・有料老人ホーム・サービス付き高齢者住宅等）との競合により入居利用率は表1のとおり下降線を辿っている。短期利用者については29年度において多少上昇を見せているが、26年度以前までに戻ることはなく依然厳しい。

表2 入居時に居住していた場所の推移



29年度の退去者は20人であった。特徴として表4にみられるように90歳代の入居者が多く、入居22人に対し11人(50%)が90歳以上で最高年齢は101歳であった。平成23年度の入居者は27人だったが90歳以上は8人で29.3%であった。

また、表2にあるように入居前の居場所として老人保健施設や療養型からの転所は少なくなり、在宅からの入居がほとんどになって

きているのが特徴的である。例年、インフルエンザ感染でショートを受け入れ停止等が続いてきたが29年度は入居利用者が罹患することなく、利用率に影響せずほっとしたところである。29年8月から全職員で時間を決めて一斉清掃を実施していることが

成功したとすれば明るいニュースとなり継続の力になると思っている。

4 修繕・改修工事について

29 年度は大きな修繕工事がなく、当初予算 400 万円に対し約 300 万円で修繕工事が終了した。大きなものとしては 3 階のエアコン修繕工事で約 116 万円であった。

5 介護力向上（質のレベルアップ）への取り組み

水分補給・運動・自立排泄の取り組みは 5 年間を継続して取り組んでおりトイレ誘導・「トイレ排泄」が定着してきている。県高齢者福祉施設研究大会（8/4）において「歩行の再獲得を生きる喜びに繋げる 一歩行の再獲得を生きる」とテーマで他害行為のある利用者が安定した生活を送れるようになった実践を報告した。

6 施設としての公益及び地域貢献活動

29 年度においても市内 4 施設（千寿の園・喜久の園・松寿園・松秀園）共同でケアの質の均一性を図るため、年 5 回開催し実践交流を深めた。地域寺院の社会資源としての有用性に着目し、「釈迦祭り」や「JR さわやかウォーク」へ法人内施設及び市内障害者施設の出店をコーディネートした。またうちだデイサービスセンターにおける「青色防犯パトロール」導入の橋渡しの役割を果たした。

第 2 全体の状況

1 利用状況（利用率）

平成 29 年度の利用率は、表－1・表－2 のとおりである。入居利用率はやや下がり気味で苦戦しているが健闘している。短期利用者は稼働率が後半、上向いたが要因としては不明である。短期利用者向けの便りを発行したり満足度調査を行ったりしており、そのことが利用率アップに繋がったかどうかは定かでなく、今後の動向をみていく必要がある。

表－3 入居者利用（稼働）状況表

※入院日数は利用率には含まない

年度	入居稼働率	短期利用率	退去者数	入院日数
平成 27 年度	97.6%	68.8%	25 人	143 日
平成 28 年度	98.0%	63.9%	26 人	97 日
平成 29 年度	97.1%	69.8%	20 人	23 日

表－4 90 歳以上の入退去者状況

単位：人（入退去数における割合）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
退去者数	9 (36.0%)	15 (57.7%)	10 (50.0%)
入居者数	8 (30.8%)	8 (32.0%)	11 (50.0%)

2 経営状況（経営活動による収支）

平成 28 年度の収入は、322,181 千円で、主な内訳は、介護保険収入 318,410 千円、その他収入 2,666 千円、償還金補助金 1,105 千円である。一方、支出は、313,697 千円で、主な内訳は、人件費 225,809 千円、事業・事務費等 82,022 千円、施設整備・借入金償還等 5,865 千円であった。

また、借入金の償還は、福祉医療機構へ元金 5,000 千円、利息 315 千円、元利償還金合計 5,315 千円である。医療機構の借入金残高は残り 4 年間で 2,000 千円となっている。

<収 入>

(単位 千円)

区分	29年度	28年度	増減
介護保険	318,496	311,133	7,363
その他	2,343	2,7960	△417
計	320,839	313,893	6,946

<支 出>

区分	29年度	28年度	増減
人件費	228,771	233,402	△4,631
事務、事業費等	82,022	79,559	2,463
計	310,793	312,961	△2,168

3 職員状況（部門別職員数）

平成 29 年度末の常勤職員は 37 名で、内訳は介護職員 23 名、看護職員 5 名、管理栄養士 1 名、事務室職員 8 名である。また、非常勤職員は、嘱託職員・派遣職員・医師・歯科衛生士等を含め 24 名で全体の職員数は 61 名である。

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

(単位 人)

区分	事務室			介護職員	医務室	調理	計
	施設長・副施設長・介護部長	相談員・主幹・事務・居宅・管理	送迎担当・清掃員・洗濯員	主任・副主任一般	看護師・嘱託医師・衛生士	管理栄養士	
正規	3	5	—	23	5	1	37
非正規	—	3	8	8	5	—	24
計	3	8(3)	8	31(8)	10(5)	1	61
29年同期	3	7(1)	8(8)	30(7)	8(1)	1	56

注) 1 () は、非正規職員

年度退職が正規 CW3 名・非常勤 CW4 名（派遣含む）、正規介護支援専門員 1 名。採用は新卒 CW2 名・途中正規 CW2 名、非常勤 CW4 名、非常勤 NS 1 名で正規事務職員が非常勤へ身分切替が 1 名であった。人材確保は引き続き困難であり、途中での退職補充は極めて困難である。

4 施設整備等の状況

以下のとおりである。 修繕費総額 3,028,790 円 ・ 新規・更新購入した主なもの

主要設備改修	金 額	主要設備改修	金 額
3 階エアコン修繕工事	1,166,400 円	その他修繕工事	760,790 円
エレベーターロープ取換	356,400 円		
2・3 階床防滑工事	367,200 円		

温冷車修繕工事	164,160 円	備品更新・購入	
地下排水ポンプ取替	213,840 円	貯水式電気温水器	162,000 円

5 特記事項

(1) 家族・利用者の声に耳を傾け寄り添う活動

①家族懇談会 5/27（土）開催—参加 21 家族（23 名）

前年、千寿の園で生活し看取られた方の長男による千寿の園での生活・看取り対応についての思い・感想を述べられ現在の家族に対して講話を行った。さらに2階、3階の利用者に分かれグループ懇談を行った。

②入居者懇談会 30 年 2 月 7・8 日（水・木）2 階 13 名・3 階 10 名の参加で実施した。

職員は優しいけど忙しいと声をかけづらい、トイレで怒られることもあるとの声が出され昔行ったところへ行きたいなどの要望が出された。

(2) 施設行事

①夏祭り—7 月 15 日（土） 利用者家族 35 世帯 38 人・来賓 20 人・ボランティア 12 人、計 70 人参加。職員によるひげダンスやマジックショーなどで楽しみ、「きくのん」の登場もあり賑やかに終えることができた。

②花火大会—8 月 24 日（木）4F 屋上で行い、アイスのジェラートは食べたけどビールを出す時間がなく不満もあったが、手持ち花火で楽しむことができた。

③敬老祝賀会—9 月 16 日（土） 利用者家族 30 世帯・来賓 10 名参加。光陽バンド「ドロップスの演奏を楽しんだ。ショート利用者も含み記念品を手渡し、大事そうに受けと

っていた。

④新年祝賀会—1 月 3 日（水） 恒例になった職員手作りの千寿神社に初詣をし、願い事をした後昔の正月遊びを楽しみ往時を懐かしんだ。

第3 部門別の状況

1 管理・事務部門

(1) 全体運営（マネジメント）について

理念に基づいての実践を基本とし、運営基本方針として組織原則である「①専門化の原則」「②権限・責任一致の原則」「③命令一元化の原則」「④統制範囲適正化の原則」「⑤例外の原則」に基づき「介護力向上（水分・自力排泄・経口摂取・認知症ケア等）」「リスク管理」

「利用者の声の聴取と寄り添い」「家族の声を聴取」「地域と共同での防災対策」「在宅介護サービスの充実」「社会的貢献事業への取組」を指標において実践に取り組んだ。

(2) 事務、経理・備品、修繕等管理について

①事務・経理

28 年度に退職の意思を明らかにした事務職員の補充対応が十分でなく、非常勤化による退職の延長や 28 年度末の社会保険労務士事務所の業務委託・法人本部、他施設からの支援、更に事務室職員の業務分担の過重と事務体制の不備が露呈された年度であった。

②建物・備品等修繕

ア 修繕工事は平年並みの 38 件で終了したが、経年劣化は一段と進行している。緊急工事としてエアコン室外機、エレベーター主ロープの取換工事である。

イ 電力・ガス・水道使用料はここ数年、平均使用料となっており、大きな変動はない。

ウ 消耗品としてはコピー用紙代が減額となりお尻拭き等も平年並みに落ち着いた。

(3) 諸会議開催状況

①職員全体会 3 回

ア 第 1 回－ 5 月 26 日(金)

a 入居者待機状況 b 28 年度事業・決算状況報告 c 各グループ・委員会報告 d 事故防止委員会「KYT (危険予知) トレーニング」 40 名

イ 第 2 回－10 月 27 日 (金) 41 名

a 白翁会コンプライアンス学習－理事長講義 b 高齢者施設福祉研究大会発表報告 c 講演「精神疾患を伴った高齢利用者へのフォロー」 講師：M ネット 東遠 原田正美氏

ウ 第 3 回－ 3 月 23 日(金)

a 白翁会就業規則、給与規程等の改正説明

②管理運営会議 12 回 (4/24・5/29・6/22・7/24・8/24・9/28・10/27・11/24・12/25・1/25・2/23・3/23)

③専門会議 (委員会)

ア 介護部主任・副主任会議 13 回 (4/24・5/29・6/22・7/24・8/24・9/28・10/27・11/24・12/25・1/25・2/23・3/23) 計 13 回

イ トライアングル会議 2 階・3 階フロア各 10 回 (4/24・5/29・6/22・7/24・8/24・9/28・11/24・12/25・2/23・3/23)

※トライアングル会議＝フロア別主任副主任会議

ウ 介護部フロア会議 2 階フロア 1 回 (5/23－6 名)

3 階フロア 2 回 (4/2－5 名・10/27)

エ 介護部グループ会議 4/2・10/27 年 2 回しか開催できず (前年は各グループ各 3 回であった)、次年度の課題となった。

オ 医務室会議 6 回 (5/10・7/3・9/11・11/13・1/11・3/7 各参加人数は 5 人)

カ 介護力向上委員会 12 回 (4/24-9・5/29-9・6/22-9・7/24-9・8/24-9・9/28-9・10/27-9・11/24-9・12/25-8・1/25-8・2/23-8・3/23-10)

* 一線以下は参加人数

(4) 研修活動

◇O J T (職場内研修)

- ①主任・副主任研修 4/24 10/10 対象 8 名
- ②新採用職員研修 (介護・防災 5/26-5 名・「ようこそ新人さん」3 名対象 7/26)
- ③感染症学習会 10/27 41 名・清掃指導 9/11・13・15-延べ 32 名
- ④課題論文の全員対象読了レポートの提出

◇O F F - J T (職場外出張・研修)

- ア 公的出張 (県老協総会等) 8 回 10 名
- イ 中東遠地区職種別研究会 8 回 8 名
- ウ 高齢者福祉大会「発表」等他の職場外研修 13 回 18 名
- エ 市内 4 施設学習会 4/26・6/15・8/17・10/12・1/10 5 回 10 名

2 介護部門

(1) 全体総括

目標を「利用者のニーズに寄り添い利用者自身の保有能力を見出し、その力を活かせるようなケアを実践しつつ、ケアの質を向上させる」とし取り組んだ。

利用者の「強み」を見出す事でトイレでの排泄、歩行器使用での歩行、食事形態の向上等、利用者自身が持っている能力を引き出すケアが実践できた。また、機能面だけに着目するのではなく、生活の中での役割や楽しみを提供し、一緒に活動する事でその人らしい日常を送る支援ができつつある。利用者の笑顔が職員の喜びにも繋がった。

業務レイアウトの作成、調整、1 日 1 人リーダー制は 3 年を経過した事で定着化され、職員個々の意識や責任感は高まったように感じる。リーダーを中心に情報の伝達、発信、確認をする体制作りも出来てきている。

「ケア検討」を活用しながら、利用者個々の状態を確認・把握し、また個別支援の統一性を図ってきた。居室担当者として利用者の思いや気持ちに、どれだけ気づくことができるかが大きなポイントであるが、多角的視点や洞察力・思いを汲み取ることへの弱点のある職員が克服できておらず周囲の助言やアドバイスの必要性がある。

面会が多い利用者家族と「なじみの関係」ができ、コミュニケーションの充実も図れている。繋がりを強めるため実際のケアの様子を観察してもらい日々の生活状況を伝える努力を行ってきた。年 3 回の家族への手紙、グリーフケアの手紙 (19 名) は継続している。退去された家族が花見行事にボランティアに来てくれるなど千寿の園のケアが退去後にも繋がったことが特徴として挙げられる。

◎主任・副主任の役割

1 日リーダー制が 3 年目となり 1 年面に比べ、フロアのリーダー同士がお互いの業務状況等の把握ができるようになってきた。他職種とも調整役として統一した対応が行える様に努めた。主副主任によるトライアングル会議を実施することで意思の一致と協力関係が構築できた。介護力の面では、主任・副主任のフォロー役があまり機能しなかった点が課題

として残る。

◎介護力向上委員会活動 12回

自立支援ケアの取り組みとして6月～12月に2階3名、3階3名を対象者として選定し職員3人～4人グループにて1名の利用者を対象に自立支援ケアのテーマを決め計画・実施した。水分・食事・排便・運動の視点を基礎におきつつ利用者の楽しみや笑顔を増やす取り組みを考えた。6名の利用者のケアに取り組む事により、「その人らしさとは」と考える視点ができ、利用者の「思い」からケアの展開する意識が芽生えた。

ア 新規採用職員研修会の開催

テーマ『オムツ外しはじめましょう～オムツ使用はだれのため？～』

5月26日 参加者 4名

イ 第9回静岡県高齢者福祉研究大会での発表 8月4日 場所：沼津市

(2) 各グループ総括

◎2階「大空グループ」

1ヶ月に1日は「環境整備の日」とし、各居室、サイドレール清掃、食堂床の清掃、時間の余裕をみて車椅子の清掃を行った。3ヶ月ごとに事故の集計をし、フロアーに提示したことにより、各自が事故の傾向、多発者の把握が出来た。声掛けについて意識は出来ていたが、時間の余裕がなく介助後の声掛けになってしまう事があった。今後は声掛けと同時に口調にも配慮していくことを課題とする。居室担当者が他の職員に意見を聞こうとしているが時間に追われ時差勤務で聴取できないこともあり、ケア検討が多数あげられているため把握・実践できていない事があった。グループ会議を定期的に行っていきたい。

◎2階「輝きグループ」

環境整備として居室、廊下、食堂のベランダに季節に合った花や、観葉植物を置き、屋内に居ても季節感が出る様な環境作りを行った。利用者と一緒にやる事で関わりも増えていた。口腔ケアについては居室担当者にひとり一人が取り組める内容のアンケートをとり実施した。課題として出来なかった原因を分析し毎食後の口腔ケアを目指していく。

◎3階「愛グループ」

利用者との関わりを意識することで思いや状態を把握することができた。短い時間ではあるが口腔体操を継続して行うことで利用者の笑顔を見ることができた。また、家族の面会時には利用者情報を伝えると共に利用者本人とゆっくり過ごす時間が持てるよう環境や場所の配慮を行った。今後も意識して関わる時間をつくることは課題である。一斉清掃を実施してから共有スペースの整理整頓はできたが居室内まではできず、居室担当者の役割としての位置づけを明確にしていきたい。

◎3階「若さグループ」

ショート利用者の情報の共有化として、荷物のカゴにメモ書きしカウンター内にも貼り紙する事で忘れ物を減少されることができた。iPadでの利用者の撮影は意識が薄れ継続出

来ていない。楽しみのある生活についてはレクリエーションを行うことで少しずつではあるが笑顔を引き出した。環境整備については時間に余裕がなく行うことが出来なかった。

◎「ショートプロジェクト」4回開催（4/17・8/24・10/11・12/23・3/22）

ア ショート利用者に対しアンケート調査を行い64名中24名から回答を得た。

イ ショート通信を2回発行した。

ウ 図書コーナーの設置はしたが、機能しなかった。

エ 介護職員の送迎機会の増数を図り、在宅での様子を記録化した。

3 相談員部門

1) ベッド利用率の向上（目標値：98.5%）

退所者は20名（永眠者19名 医療機関への転院1名）と昨年度を6名下回った。しかし待機者不足は続いており、対策として11月より関係職種で入居会議を毎月1回定例開催し、入居状況や各種加算等について総合的に検討を行ったことにより後半からは入居業務に余裕を持つことができた。

2) 利用者・家族対応

家族懇談会（5/27）、利用者懇談会（2/7・8）を開催すると共に、日常の中からも利用者や家族と直接関わりを持つよう努め、他職種と連携、協力を得ながら対応した。また、29年度は家族から法律や制度等に関する問合せが多くあり、関係機関と協力し対応する事が出来た。

3) 生活困窮者等の社会的弱者へのアプローチ

行政や地域包括支援センター、居宅ケアマネージャー等からの入居相談や依頼に対し、施設の持ち得る力量を考慮し社会的役割を果たした。29年度は生活保護受給者、独居、高齢者2人世帯等を入居に繋げ、医療機関からの入居依頼の増加にも短期利用を含め最大限の対応を行っている。

4) ボランティア受け入れの継続と地域社会との繋がり強化

市ボランティアセンターからの依頼を受け小中高校ボランティア（夏祭り12名、運動会12名、クリスマス会12名）や、高校生インターンシップ（3名）を受け入れた。学生ボランティアは29年度も募集人数を大幅に上回る希望者があり受け入れ人数を増やして対応した。定期ボランティアを対象に懇談会を開催し（7/5）活動環境の整備に努めた。地域社会（住民）との関わりについては、菊川祭典時の余興披露に4地区の来園があった。僧侶による法話ボランティアは6回（4/20・5/6・7/25・9/5・1/16・2/15）来園があり、心の癒し（精神性）がなされた。

4 医務室（看護）部門

1) 嘱託医師との連携に関する業務内容についてマニュアル（平準化）は完成に至っておらず、引き続きの課題である。

2) 入居面接は3人の看護師が担っており、家族の都合に合わせてスムーズに行えている。

3) 看護師による介護職員の医療スキルチェック・指導は1回目を6月～8月にかけて実

施したが2回目は吸引の実施対象者がいないこと介護職員の人員不足により時間が取れず行えなかった。

4) 感染症対策についてはインフルエンザワクチン接種・感染症の学習会を例年通り実施した。29年度から開始したアクセル（除菌洗剤）での清掃の取り組みの成果あるいは一斉清掃による環境整備の効果とも考えられるが入居者に感染症の発症はなかった。

5) 永眠者は19名あり14名の看取り加算を取得した。29年度においても合同慰霊祭（11/18）を行ない看護師も参加した。家族との関係については入居面接時から看取りの説明を行い穏やかな看取りにつなげた。

6) 遠方の家族や関係性が薄い家族を把握し、連絡の取れる体制の構築に努力した。

7) 入居時から短期間で病状が悪化し、救急受診後に病院で死亡した利用者が4名あった。

8) 褥瘡は発赤や軽い創の段階で適切な対応をすることで早期に治癒できており、発症はない。入居前からできていた方も入居後に改善されている。

9) 健康診断は4/6・11/16の2回行った。ストレスチェックも実施している。

5 給食部門

1) 食生活の充実

食生活改善委員会を月1回開催し、食に関わる生活に対し広範囲、総合的に検討し食生活の充実に努めた。

2) 食事の楽しみを増やす

献立のマンネリ化を防ぐため新メニューを15回取り入れ、いずれも好評を得た。また旬の材料を献立に使用した季節の行事食を下記のとおりに行った。

【行事食】4/1 開園記念日（赤飯・祝饅頭）、5/5 端午の節句（真鯉饅頭）、5/14 母の日（カーネーション饅頭）、7/7 七夕祭り（七夕そうめん・七夕の夜饅頭）、7/13 お盆（ぼた餅）、7/25 土用の丑（鰻の蒲焼）、8/15 終戦記念日（すいとん）、9/18 敬老の日（赤飯）、9/23 お彼岸（おはぎ）、10/4 中秋の名月（お月見饅頭）、10/31 ハロウィン（かぼちゃの蒸しケーキ）、11/23 勤労感謝の日（赤飯）、12/22 冬至（かぼちゃ料理）、12/23 天皇誕生日（赤飯）、12/25 クリスマス（チキンライス）、12/31 大晦日（年越しそば）、1/1～2 正月（おせち料理・雑煮・干支饅頭）、1/3 新年祝賀会（赤飯・甘酒）、1/7 七草（七草粥）、1/11 鏡開き（お汁粉）、1/15 小正月（小豆粥）、2/3 節分（節分ボーロ）、2/11 建国記念日（赤飯）、2/14 バレンタインデー（ティラミスケーキ）、3/3 雛祭り（ちらし寿司・桜だんご）、3/14 ホワイトデー（おからケーキチョコマーブル）、3/21 お彼岸（ぼた餅）

3) 体調に合わせた食事の提供

利用者の体調に合わせ、食事形態の変更及び食事量の増減等、介護職員・看護師・給食委託業者と連携し速やかに対応し、回復後は早期に元の形態へ戻せるように取り組んだ。また食事変更時に活用しやすいよう副食形態一覧表を写真付きで作成した。

4) 栄養ケア・マネジメント実務の充実

入居後、速やかに情報収集を行い、早い段階で栄養ケア計画の作成を行った。また、各種協働により利用者の身体状況、嚥食状況を把握して栄養ケア評価を行い、低栄養のリス

クの高い利用者には栄養補助食品を補給し栄養改善に努めた。しかし栄養ケア・マネジメントのアセスメントからモニタリングまでの一連の作業が依然として後回しになっており課題として残っている。

5) 衛生管理の徹底

委託業者と共に厨房内の衛生管理に努め、29年度も食中毒の発生を防ぐことが出来た。また食中毒・感染症対策委員として施設内の衛生管理に努めた。

6 各委員会活動報告

1) リスクマネジメント委員会

事故防止・苦情解決・身体拘束廃止・褥瘡対策・個人情報委員会議事録をまとめ、管理運営会議後に提出し論議検討した。

【出席者】管理運営会議出席者＋杉浦委員会委員長

会議開催日：4/24（月）・5/29（月）・6/22（月）・7/24（月）・8/24（木）・9/28（木）
・10/27（金）・11/24（金）・12/15（月）・1/25（木）・2/23（金）・3/23（金）

2) 苦情解決委員会

29年度における苦情は4件あり、居宅支援事業所へ他事業所の苦情が1件あり、施設職員へのケアに対するもの1件、衣類の紛失に伴うもの1件、短期の送迎忘れ1件があり法人苦情解決第三者委員会を6/21・1/31の2回開催し、苦情・事故状況を報告した。

3) 個人情報保護委員会

29年度も引き続きチェックシートを全職員対象に行い52名から回答を得て、個人情報保護の意識向上に努めた。

4) 身体拘束廃止・虐待防止委員会

開催日 4/10・5/3・6/8・7/4・8/2・9/3・10/16・11/4・12/8・1/9・2/10・3/4 計12回開催

センサーマット使用状況の確認を常時行い、29年度はトロミ剤を食するという食の疑似体験を実施した。「身体拘束意識調査」を全職員対象を行い、32人から回答を得、分析し意識の向上に繋げた。

5) 事故防止委員会開催日 4/8・5/1・6/12・7/3・8/10・9/1・10/1・11/8・12/3・1/11・2/10・3/4 計12回

事故状況を分析し対応を検討すると共に「KYT（危険予知）トレーニング」を全員でグループ別に論議し事故を未然に防ぐ取り組みに取り組んだ。また、自殺願望を持つ利用者に対し精神保健福祉士による学習会を開催した。

6) 褥瘡対策委員会開催日 4/13・5/11・6/5・7/7・9/7・10/3・11/9・12/12・1/4・2/6・3/6 計12回

ア 毎月、定期的に処置対応者をピックアップし、前月と比較し創状態・処置方法・対応ケアについて確認を行うと共に、今後の対応・対策について検証した。

イ 褥創の定義・予防や対応についての勉強会を行った。10/27-7・1/12-4・1/17-5人

7) 感染症・食中毒対策委員会

会議は11回開催（2月は持ち回り会議）4/14・5/16・6/27・7/27・8/8・9/8・10/16・11/10・12/18・1/10・3/7

昨年度から計画していたアクセルを使用した一斉清掃の準備が整い 8 月 14 日から施設内の各部署で分担を決めて開始した。9 月 11 日・13 日・15 日の 3 日間、OKU の樋口氏により清掃指導の研修を行い、10 月 27 日の職員全体会議でルビスタ使用によるノロウイルス感染対応の学習会を行った。29 年度は入居者のインフルエンザやノロウイルスの感染発症がなく経過出来た。インフルエンザマニュアルの修正を行った。

8) 看取り介護委員会

委員会開催 12 回 (4/10・5/10・6/21・7/28・8/22・9/25・10/25・11/17・12/5・1/18・2/9・3/13)

第 1 回学習会は 11 月 18 日実施の合同慰霊祭 (洞月院：佐々木住職) 時に家族・職員間で在りし日の思い出を懇談し、ご家族の思いを受けて当施設での看取りケアを振り返る事が出来た。第 2 回学習会は看取り期に対応した職員の精神的負担の軽減を図るために、先ず各フロアーにおいて CW よりグループごとの聞き取りを中心に「看取り期の対応に関して不安に感じている事」を抽出した。その上で具体的な対応方法や疑問点・不明点を明確にして共有する事出来た。施設長課題として北村育子論文「高齢者における終末期ケア・看取りをめぐるソーシャルワーク実践の課題」を全員が読了しレポートした。

9) 医療的ケア安全対策委員会 8 回開催 (4/10・5/12・6/21・8/22・12/5・1/8・2/9・3/13)

- ①介護職員のスキルチェックを 1 期間 (6/2～8/23) において実施した。
- ②新入職者 1 名に対し、経管栄養・吸引の DVD を事前に視聴後 (2/6) 指導を行った。

10) 衛生委員会

9 回開催 (4/10・5/30・6/21・7/28・9/25・12/5・12/13・1/18・3/13)

- 1) 健康診断で要注意者への受診指導・腰痛ベルトの正しい装着指導と貸与を行った。
- 2) 年 1 回のストレスチェック実施 (対象職員 45 名中 44 名の提出) 産業医への申告なし。

11) 食生活改善委員会

- 1) 食事の楽しさを増やす

『五感で楽しむ食事』をテーマに 5 年前から実施している「フロアーでの食事の盛付」(食べる場での匂いで食を誘う試み) は、利用者からおかわりの声が多く聞かれるようになり取り組みの成果が得られている。イベントはほぼ毎月 1 回行い、季節感を取り入れたイベント食を提供することが出来た。また、利用者の誕生月にリクエストを聞きメニューに取り入れる活動も 3 年目を迎え、当日は誕生日カードを送り、喜ばれる食事の提供に努めた。

①イベント 計 11 回実施

【イベント食】4/27 餅つき会、5/7 手作り柏餅と新茶を楽しむ会、6/29 鮎の炭火焼、7/16 夏祭り (選択食・お好み焼き・ソフトクリーム・駄菓子)、8/31 流しそうめん、9/16 敬老祝賀会 (握り寿司ライブ・祝饅頭)、10/19 さんまの炭火焼、11/29 焼き芋、12/28 年忘れスイーツバイキング、2/21 お好み焼き・甘酒パーティー、3/29 駄菓子屋さん

②フロアーでカレーや麺のかけ汁の盛付 計 23 回実施

・カレー盛付 ⇒ 4/18、6/22、7/24、8/29、9/26、10/26、1/19、2/19、3/20

・麺のかけ汁 ⇒ 4/11、4/26、5/30、10/5、10/18、11/7、11/20、12/19、1/17、1/30、2/15、2/26、3/13、3/27

③利用者のリクエストメニュー 計延べ 65 回実施

2) 食事環境を整える

椅子に座り足を床に付けて食事をする取り組みを継続して行うとともに、今年度は『静かな環境で食事をしよう』をテーマに「食事時はテレビを消す」活動に取り組み、食事に集中できる時間を持つことが出来た。さらに職員及び利用者へも継続の有無のアンケートを実施し、ほぼ全員の意見で来年度も継続する結果となった。

3) 適正で美味しい給食の提供ができる

委託業者より給食材料費の収支報告を受け業務の質的向上に努めた。また年度末にチェックシートを活用して委託業務内容の見直しを行った。給食内容については、検食簿の所見を参考に味付けや献立の組み合わせの見直しを行った。

12) 広報委員会 開催日 4/26・5/24・6/26・7/7・9/19・11/11・2/12 計 7 回

- 1) 各季節にあったテーマや行事を選び、季節感が出るように作成した。
- 2) 写真が多くなり過ぎず、文とのバランスを考えてレイアウトした。
- 3) レイアウトを 1 から見直し広報紙のデザインを変えて、縦書きのページも作成した。
- 4) 3 回広報紙発行した (8 月、12 月、4 月)。

13) 防災委員会

ア 通常の防災訓練 4 月 21 日・5 月 22 日・6 月 23 日・7 月 27 日・8 月 21 日・9 月 25 日・10 月 25 日・1 月 19 日・3 月 22 日 計 9 回実施

イ 地元自治会との共同訓練

11 月 10 日 本通り下自治会自主防災組織との打ち合わせ

12 月 3 日 地域防災の日に合わせた自治会共同体験訓練

ウ 11 月 29 日 コミュニティによる抜き打ち非常呼び出し訓練

エ 12 月 17 日 消防署立ち入り検査

オ 2 月 22 日 停電による自家発電等取扱い訓練及びフロア内の明かりの確保訓練

第 4 短期入所生活介護事業所

- 1) 新規契約者 37 件、終了者 24 件があり、うち千寿の園への入居が 8 件であり短期利用者の獲得と共に短期入所から施設入居に繋がるよう努めた。デイサービス利用者の週末利用希望者の増加による全体稼働の向上に努めた。また、29 年 11 月以降については一人の利用者が今まで以上の日数の増をみることで、全体の利用増につながった。
4 月～9 月の利用率 55.8%・10 月～3 月 79.9%の利用率で後半期の増が特徴的だった。
- 2) 29 年度は「感染性疾患」が流行せず、一時的な利用停止がなかった。
- 3) 29 年 1 月に認可取得を受けた「ふじのくに型障害者短期入所事業」については、受入体制が万全ではなく、受入見合わせの状態となっていることが課題である。

第 5 居宅介護支援事業所

1 安定した居宅介護支援の提供に努める

特定事業所加算要件でもある定期的な会議開催を行う事で、各ケアマネジャーが抱えるケースの課題を共有する事ができ、またディスカッションの機会にもなり得た。それにより、支援をより深い視点で論議する事で、先を見通した関わりや援助が出来た。

2 安定した事業運営の為にを行う 2 つの可視化

外部に対する発信として、市担当課や地域包括支援センターへどの様な視点で利用者への関わりを持ったかがわかる様に文書により発信を行い、情報誌『ささやき』において民生委員や病院への配布を行い選ばれる事業所として取り組んだ。しかし、年度後期においては、事業所体制の在り方検討/体制構築等の業務もあり、発信を縮小せざるを得なかった。

『ささやき』と連動させ、介護保険情報の確認手順を画像で掲載し、わかり易い形で提示し案内をすることが出来た事は特筆しておく。

3 社会福祉法の事業所をより意識した取り組み

精神障害の同居家族を含んだケース、成年後見制度を利用促進させる必要のあるケース、若年性認知症で支援の受け入れが難しいケース、40 歳前半の知的障害者の介護保険該当ケース等々、特性のあるケースが複数に累計出来る依頼があり、類似したケースも複数対応してきた。事業所として介護報酬に至らない期間から丁寧に対応をしてきた実績からか、関係機関等から定期的に一定数の依頼が来る状況を維持出来ている。

資料編

平成 29 年度

平成 30 年 3 月 31 日現在

特別養護老人ホーム千寿の園

1 介護度別利用(入居)者数

(平成30年3月31日現在)

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合 計
男 性	1	1	4	5	4	15
女 性	0	0	10	24	20	54
合 計	1	1	14	29	25	69
割合(%)	1.4%	1.4%	20.3%	42.0%	36.2%	100.0%

平均要介護度	4.10	(男性	3.70	女性	4.20	)
平成29年度	4.00	(男性	3.70	女性	4.10	)

2 年齢別利用(入居)者数

(平成30年3月31日現在)

	64歳以下	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳～94歳	95歳以上	合 計
男 性	0	1	2	0	6	3	1	2	15
女 性	0	2	1	1	6	18	18	8	54
合 計	0	3	3	1	12	21	19	10	69

(平成29年3月31日現在)

	合 計
男 性	14
女 性	53
合 計	67

3 利用(入居)者平均年齢

(平成30年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男 性	83歳3ヶ月	66歳1ヶ月	99歳
女 性	88歳9ヶ月	65歳2ヶ月	102歳11ヶ月
合 計	87歳8ヶ月		

(平成29年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男 性	83歳2ヶ月	65歳1ヶ月	99歳
女 性	88歳4ヶ月	64歳2ヶ月	104歳4ヶ月
合 計	87歳3ヶ月	-	-

4 在所期間別利用(入居)数

(平成30年3月31日現在)

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	4年以上	合 計
男 性	5	2	3	3	2	15
女 性	11	16	7	7	13	54
合 計	16	18	10	10	15	69

(平成29年3月31日現在)

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	4年以上	合 計
男 性	3	5	4	0	2	14
女 性	19	9	11	4	10	53
合 計	22	14	15	4	12	67

5 食事介助状況者数

(平成30年3月31日現在)

区 分	人 数	割 合
全面介助者	10	14.5%
一部介助者	24	34.8%
介 助 な し	35	50.7%
計	69	100.0%

(平成29年3月31日現在)

区 分	人 数	割 合
全面介助者	10	14.9%
一部介助者	23	34.3%
介 助 な し	34	50.7%
計	67	100.0%

6 入浴介助状況者数

(平成30年3月31日現在)

区 分	人数	割 合
特 別・中間浴	43	62.3%
一 般 浴	26	37.7%
個 浴	0	0.0%
計	69	100.0%

(平成29年3月31日現在)

区 分	人数	割 合
特 別・中間浴	47	70.1%
一 般 浴	20	29.9%
個 浴	0	0.0%
計	67	100.0%

7 排泄介助状況者数

(平成30年3月31日現在)

区 分	人数	割 合
リハビリパンツでの排泄者(ベッド上)	9	13.1%
紙パンツ又はトイレ介助者、 ポータブルトイレ使用者	31	44.9%
歩行、杖等でのトイレ使用者	29	42.0%
計	69	100.0%

(平成29年3月31日現在)

区 分	人数	割 合
おむつ使用者	2	3.0%
紙パンツ又はトイレ介助者、 ポータブルトイレ使用者	41	61.2%
歩行、杖等でのトイレ使用者	24	35.8%
計	67	100.0%

8 面会状況

(平成29年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成28年度
人 数	188	193	300	258	278	244	254	228	243	200	173	256	2,815	2,801
1日平均人数	6.3	6.2	6.7	8.6	9.0	8.1	8.2	7.6	7.8	6.5	6.2	8.3	7.7	7.7

9 外出(帰省)状況

(平成29年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成28年度
人 数	8	7	4	1	3	3	2	3	2	5	1	4	43	52
日 数	8	11	6	3	7	7	4	5	5	9	6	6	77	64

10 入居・退去状況

(平成29年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成28年度
入居者数	1	3	4	1	3	0	4	0	2	2	2	0	22	25
退去者数	2	3	2	3	1	1	2	1	1	2	1	1	20	26
月末在籍者数	66	66	69	66	68	67	69	68	69	69	70	69	816	823

(平成29年度)

	入 居			退 去			平成28年度	
性 別	男 性	女 性	合 計	男 性	女 性	合 計	入 居	退 去
人 数	7	15	22	6	14	20	25	26
入居前及び 退去時の状況	居 宅		12	死 亡		19	居宅	15
	病 院		4	他施設・長期入院		1	病院	5
	施設(老健等)		6	居 宅		0	老健等	5
							他施設 長期入院	1
							居宅	0

※療養型は施設とする

11 苦情受付状況

1) 苦情受付件数

(平成29年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成28年度
苦情受付件数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	4	1

2) 苦情の分類一覧

(平成29年度)

苦 情 の 分 類	件 数
ケアの内容に関わる事項	1
個人の嗜好・選択に関わる事項	0
他の利用者・職員に関わる事項	0
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	1
施設内規に関する事項	0
その他	0
合 計	2

平成28年度

苦 情 の 分 類	件 数
ケアの内容に関わる事項	3
個人の嗜好・選択に関わる事項	0
他の利用者・職員に関わる事項	0
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	0
施設内規に関する事項	0
その他	1
合 計	1

12 他医療機関への受診状況

(平成29年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平成28年度
内 科		1	1		1	1					1	1	6	5
精神科													0	2
脳外科													0	4
整形外科	1	1	3	2	1	1	1	1	2	3	3	1	20	9
外 科											1	1	2	5
泌尿器科											2		2	0
眼 科					1								1	1
皮膚科			2			1		1		1		1	6	2
歯科	1			2	3	5	3			9	6		29	14
耳鼻科													0	2
合 計	2	2	6	4	6	8	4	2	2	13	13	4	66	44

13 入居者・利用者医療状況

1) 入院状況

(平成29年度)

治療科	人数	治療科	人数	平成28年度	
内科	4	泌尿器科	0	0	0
循環器科	0	整形外科	1	0	3
外科	1	精神科	0	0	0

2) 処置状況

(平成30年3月31日現在)

処置状況	人数	処置状況	人数	(平成29年3月31日現在)	
経口与薬	68	経管栄養	1	66	2
創傷処置	4	バルーンカテーテル挿入	0	8	0
軟膏塗布	20	浣腸、排便	6	10	11
点 眼	11			9	

3) 嘱託医師定期外往診状況()は電話指示依頼

(平成29年度)

月	回数	月	回数	平成28年度	
4月	2(12)	10月	1(9)	4(17)	1(4)
5月	2(24)	11月	1(6)	0(1)	3(20)
6月	2(15)	12月	1(7)	1(10)	1(11)
7月	3(12)	1月	2(17)	1(9)	2(19)
8月	1(4)	2月	0(16)	3(10)	4(19)
9月	1(13)	3月	1(15)	1(6)	7(18)
合 計		17(140)		28(144)	

4) オンコール出勤回数・()は電話対応のみ回数

(平成29年度)

月	回数	月	回数	平成28年度	
4月	1(4)	10月	1(1)	1(10)	0(0)
5月	3(1)	11月	1(3)	0(4)	4(9)
6月	0(1)	12月	0(0)	1(0)	1(6)
7月	3(7)	1月	3(2)	0(2)	2(5)
8月	1(2)	2月	4(7)	2(4)	4(7)
9月	0(2)	3月	1(2)	1(3)	3(25)
合 計		18(32)		19(52)	

平成28年度	
1(10)	0(0)
0(4)	4(9)
1(0)	1(6)
0(2)	2(5)
2(4)	4(7)
1(3)	3(25)
19(52)	

14 所在状況

(平成30年3月31日現在)

保険者名	在籍者数	入居・退去状況		平成28年3月31日現在		
		入居	退去	在籍者数	入居	退去
菊川市	61	20	16	57	21	24
掛川市	6	2	3	7	2	1
牧之原市	0	0	1	1	1	0
島田市	0	0	0	0	0	0
浜松市	0	0	0	0	0	0
その他	2	0	0	2	1	1
合 計	69	22	20	67	25	26

15 入居申込み(待機者)状況

(平成30年3月31日現在)

市区町名	申込者数	平成28年3月31日現在
菊川市	110	114
掛川市	6	7
御前崎市	3	3
静岡市	1	1
島田市	2	2
牧之原市	4	2
磐田市	2	2
県外	3	3
合 計	131	134

16 ボランティア(慰問)状況

(平成29年度)

月 日	団体名(代表者名)および個人名	内 容
4/12~3/14	松本静苑(書道クラブ) 計9回	書道指導
4/20~2/15	洞月院住職法話 全6回	法話・紙芝居
4/14~11/24	傾聴・おはなしボランティア 計16回	利用者とのコミュニケーション
7月15日	学生ボランティア12名	行事(夏祭り)のお手伝い
9月16日	光陽荘バンド「ドロップス」	敬老祝賀会での楽器演奏
10月14日	3丁目・4丁目・5丁目上・柳町自治会	菊川市祭典・踊り披露
11月12日	小中学生ボランティア10名	行事(運動会)のお手伝い
12月24日	小中学生ボランティア10名	行事(クリスマス会)のお手伝い

17 ボランティア(奉仕)状況

(平成29年度)

団体名(代表者名)および個人名	内 容	年間日数	延人数	団体名(代表者名)および個人名	内 容	年間日数	延人数
民生・児童委員	清掃・傾聴	11	20				

18 事故調査状況

(平成29年度) (平成28年度)

	＜所見＞	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	計
怪我	転倒	6	1	4	4	2	8	3	3	11	4	6	1	53	108
	転落・滑落	4	1	1	5	3	6	2	6	6	7	2	7	50	52
	外傷	3	13	12	7	10	10	4	9	7	2	3	7	87	131
食物	誤嚥・誤飲													0	2
	異食	2	2	1	1	1	2	1		3	1	1	1	16	15
薬	誤薬	2							1	1				4	4
	投薬ミス	3	1	12	1	4						2		23	25
	投薬忘れ		1							2				3	5
ケア	爪切り		2										1	3	1
	忘れ物				1	1	2			2	2	1		9	15
物損	私物紛失				1		1				1			3	2
	物損	1	1						1	1		2		6	11
利用者同士のトラブル									1	2	2		2	7	7
合 計		21	22	30	20	21	29	10	21	35	19	17	19	264	378

19 実習状況

(平成29年度)

学 校 名 等	実 習 名	年間延日数	実人数
静岡こども福祉専門学校	介護福祉士単位実習	20	2
菊川南陵高等学校	インターンシップ	20	2
静岡県立小笠高等学校	インターンシップ	3	1
合 計		43	5

平成28年度	
2	4
1	2
0	0
3	6

20 短期入居生活介護利用状況

(平成29年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成28年度
利用者人数	35	33	28	35	37	36	35	40	35	38	37	36	425	428
総利用者数	174	171	160	168	186	180	215	262	275	270	236	266	2,563	2,338

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均利用率	平成28年度
1日平均	5.8	5.5	5.3	5.4	6.0	6.0	6.9	8.7	8.8	8.7	8.4	8.5	7.0	6.40
送迎回数	76	68	62	86	92	104	112	125	124	117	113	123	100.2	85.4

21 居宅介護支援事業所利用状況(平成30年3月31日)

1) 新規登録者(要介護度者+要支援者)

居宅の届け出をした利用者数。受付、予防になった人数含む

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成28年度
男性	2	0	0	0	1	1	2	0	2	0	0	0	8	15
女性	2	1	1	1	1	0	2	2	1	0	0	1	12	19
合計	4	1	1	1	2	1	4	2	3	0	0	1	20	34

2) 要介護度契約者(介護度別1～5)

新規支援者で要介護認定された利用者の数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成28年度
新規実績	2	3	0	2	2	0	2	2	3	1	1	1	19	22

3) 契約終了者(死亡及び施設入所等者)

支援を終了した利用者の内訳

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成28年度
男性	0	0	1	0	1	0	2	2	0	0	0	8	14	7
女性	1	1	0	1	2	1	0	2	3	0	1	19	31	17
合計	1	1	1	1	3	1	2	4	3	0	1	27	45	24

4) 介護度別実績契約件数

実績請求した利用者の内訳

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成28年度
要介護1	23	28	29	28	27	28	29	27	25	27	27	26	324	224
2	28	24	25	25	25	25	26	25	27	25	24	23	302	335
3	15	15	15	15	16	16	17	16	17	16	15	18	191	164
4	9	8	8	8	8	8	8	8	9	7	8	8	97	110
5	4	3	3	3	2	1	1	4	2	2	2	2	29	28
合計	79	78	80	79	78	78	81	80	80	77	76	77	943	861

5) 包括支援センターより介護予防委託実績件数

包括へ実績請求した数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成28年度
予防	13	14	12	11	12	11	10	12	13	12	11	13	144	137
事業	2	2	2	3	3	2	1	1	1	1	1	0	19	